

## 「生きる力を育成する教育の創造」

—「アクティブ・ラーニング」の視点から学習内容や指導方法を改善し、確かな学力の向上を図る—

### I 主題設定の理由

世界は今、グローバル化や情報化社会の到来により激しく変化し、未来を予測することが困難な状況にある。それに伴い、教育も歴史的な転換期を迎えている。社会の変化に対応し、自らの道を切り開いたり、社会や人々の幸福を考えたり、さまざまな問題を解決する力が求められている。「何を知っているか」という知識の獲得から、「知っていることを使い」問題を解決し、「身近な地域や社会、そして世界との関わり」でより良い人生を築いていくことが問われている。

昨年度は、「わかる授業の工夫」と「家庭学習の充実」を研究の柱として位置づけ、生徒の確かな学力の向上を図る研究を行ってきた。特に、一昨年度から取り組んできた「松中ノート」の充実を図りながら、生徒が主体的に学ぶ姿勢のあり方にも力を入れてきた。また、「学びの集会」では「学ぶことの大切さや意義」を生徒にとらえさせ、知識の汎用的な活用を図るねらいとして行ってきた。この集会では、人に伝える場面や発表する場面を多くの生徒に持たせることで、自分自身が考える力を高めるねらいもある。

本校の生徒は、素直で真面目ではあるが、学習に対する主体性や自己肯定感が十分に育っているとはいえない。そこで今年度は、県より「学力向上アクティブ・ラーニング事業推進実証検証校」として指定を受け、「主体的・対話的で深い学び」の視点から学習内容や指導方法を改善することで、これらの資質・能力を育てていきたい。それと同時に、確かな学力の向上にもつながると考え、本主題を設定した。

### II 研究の内容と方法

#### (1) アクティブ・ラーニングの実践

- ア アクティブ・ラーニングの学習会と先進校視察などの研修
- イ アクティブ・ラーニングの手法を取り入れたスキルアップ授業の実践

#### (2) 家庭学習の充実、家庭との連携

- ア 松中ノート（自主学習ノート）の効果的な活用
- イ 三大会に向けた取り組みと甲州市「家庭学習の手引き」の活用

#### (3) 授業づくり、授業改善の向上

- ア 「授業の構造化」に基づく指導方法の研究と実践
  - ・ 問いを生む発問の工夫と少人数・チームティーチング・グループ学習の活用
  - ・ 個に応じた学習指導・支援と机間巡視のあり方を模索
  - ・ 言語活動の充実を図る授業づくり、問題解決型学習の授業づくりの意義やポイントについて各教科ブロック研究会での情報交換
- イ 「思考の方法」を充実させるための指導方法の研究と実践
  - ・ シンキング・ツールを活用して思考スキルを高める手法を考える

- ・話し合い活動のあり方を考える
- ウ 研究授業と事後研究協議を行う
- エ 生徒の事前・事後アンケートによる生徒の学習に対する変容の分析と考察

#### (4) 集団の質の向上

- ア 授業規律の環境を整える
  - ・「話を聞く」「時間を守る」「あいさつ・返事」に関する指導を共通確認する
- イ 「学びの集会」を実施する（年2回）
- ウ 学年や学級で集団の意識を高めるような働きかけを行う

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

アクティブ・ラーニングの研究指定を受け、スキルアップ授業に「主体的・対話的な深い学び」の視点を取り入れて実践を行ってきたことは、一定の成果はあった。アクティブ・ラーニングの研修や先進校の視察を行いながら、「授業の構造化」に関する実証的な研究を進め、教科の枠を越えて情報交換ができたことは有意義であった。特に、「学校評価アンケート」の中で「先生はわかりやすい授業をしてくれている」項目については、生徒 **98%**、保護者 **94%** とともに経年3年を見ても高い数値であり、日々の授業に全力を注いで全教員が授業づくり・改善に取り組んでいる。また、「生徒の事後アンケート」から授業規律に関わる項目は、すべて **90%** 以上の肯定的な回答となっていた。「授業のはじまりと終わりのあいさつ」「返事をする」の項目については **100%** であり、どの学級でも学習環境や授業規律が整っていた。

松中ノートの取組は3年目を迎えた中で確実に定着をしている。どの学級も提出率はほぼ **95~100%** となっている。また、図表やイラスト、新聞記事を読んだ感想、自分で興味関心を持ったことを調べるなど授業のまとめだけでなく、創意工夫を凝らしたノートもあり、学習に対する意欲や自主性が見られてきた。

#### 2 課題

授業評価については、今後は「なぜ『オール5』をめざすのか」「なぜ『授業』を大切にするのか」など生徒に根本的な理由や意識づけを考えさせることが課題である。松中ノートの定着率は高いものの、本来の目的である「伝える力」「表現する力」については発展途上である。今後も授業と家庭学習との連携を模索する中で、松中ノートを授業の中でどのように活用していくべきか、検討する余地はある。

### Ⅳ 成果物

- 1 スキルアップ授業の実践報告シート（一人一実践）
- 2 第1学年社会科・英語科学習指導案，ワークシート
- 3 「学びの集会」の実施と生徒のワークシート
- 4 授業評価シート
- 5 松中ノート（家庭学習ノート）

（研究主任 武藤英紀）